~ 自信と誇りを持って行動できる生徒の育成 ~ 学び考える生徒 思いやりのある生徒 すすんで心身を鍛える生徒

滑中だより



令和7年9月1日発行 第6号 文責 校長 山崎 則枝



「優しい耳」で「きく」

2学期は、「耳」の話でスタートします。「きく」という漢字はいくつもありますが、よく使われるのは「聞く」と「聴く」。

「聞く」とは、「音や声が自然と耳に入る」という意味です。

「聴く」とは、「理解しようと自ら進んで耳を傾ける」という意味です。

漢字の成り立ちをみると、「聞」は「門」と「耳」によって出来ています。「門」は立ち上がった二人の人間の側面を表した象形文字で、この二人の人間の間には「耳」がついており、「響いてくる神の声をきく」というのが「聞」の原義と言われています。もっと古い字形だと「門」の上に耳があったといいます。天からのありがたい声を、二人の人間が聞いている形というようです。「聴」も「聞」と同じく神の声をきくという意味ですが、神の声を、よりはっきりきくことが出来る「神の声をきく能力がある」ことで、「聞く」よりも一歩踏み込んでいて、より能動的に意図的にきこうとする様子を表すのが「聴く」だといえます。

漢字の成り立ちからもわかるように、<u>「聞く」は黙っていても耳に入ってくる際に使い、</u>授業も、意識的にきくのではなく、教科書を見ながら何となく先生の話をきいている時には「授業で<u>先生の声を聞いている</u>」となります。それに対して、<u>「聴く」は、積極的に耳を傾ける</u>イメージで、例えば、普段はぼんやり聞いている授業も、テストに関わる重要な情報は積極的に「聴く」体勢になりますね。

さて、「**優しい耳」で「きく」**、とはどういうことでしょう。

教室では色々な場面で話し合いをします。その時、みんなが一斉に話し始めたり、人の話をろくに聞かないで自分の主張ばかりしていてはどうでしょう。話し合いでは、まずは友達の意見をよく聴いてから、自分の意見を話すとことが大切です。自分の意見を言うのが苦手な人にとっては、人前で話すには勇気がいります。

つまり、「聴く」という行為は「優しさ」があるということ、「優しい耳」が 必要です。誰かが話しているときや勇気をもって発表しているときは、周りの人 は「優しい耳」で、優しい気持ちで聴いてあげることが大切です。

「聴」には、「耳」だけだなく「目」と「心」も入っていますから。

日常の会話でも、最初は自分のことばかり話すのではなく、相手の話を「聞く」。そして、相手との理解を深め、より感情や言葉の意味を知るためには「聴く」ことが大切です。相手の話を聞き、必要に応じて質問を投げかけながら「聴く」。どちらの「きく」も意識することで、コミュニケーションを円滑にすることが出来ます。

「さすがです。滑中生!」

~ 県大会の記録・全国大会の記録 ~

<県大会の結果>

・剣道女子(団体) バスト16

(個人)

ベスト16

3回戦 1回戦

1回戦

・卓球男子(ダブルス) ベスト16

・卓球女子(ダブルス) 1回戦

・女子テニス(個人)1回戦

(団体) 2回戦



・陸上

3年男子 100m 予選1組9位

2年女子 100m 決勝1組7位

女子 800m 予選9組5位



・空手

第36回 埼玉県糸東会大会

中学3年男子の部 形 準優勝

中学3年男子の部 組手 3位

中学3年女子の部 形 4位

中学1年女子の部 形 3位

敢闘賞

中学1年女子の部 組手 敢闘賞



<全国大会の結果>

・第65回空手道糸東会全国選手権大会

中学3年男子の部 形・組手 2回戦

中学3年女子の部 形

1 回戦

中学1年女子の部 形 3回戦



·*

8月23日(土)に資源回収・制服等リユースを実施いたしました。大変暑い中でしたが、皆様の御協力により、たくさんの資源等を回収することができました。ありがとうございました。

また、制服等回収は随時行っておりますので、引き 続き、御協力をお願いします。

9月行事予定》

